

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成28年11月24日(2016.11.24)

【公開番号】特開2015-77942(P2015-77942A)

【公開日】平成27年4月23日(2015.4.23)

【年通号数】公開・登録公報2015-027

【出願番号】特願2013-217673(P2013-217673)

【国際特許分類】

B 6 2 D 25/16 (2006.01)

【F I】

B 6 2 D 25/16 B

【手続補正書】

【提出日】平成28年10月5日(2016.10.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明によれば、フェンダーパネルと、ウインドシールドガラスまたはフロントピラーとの間に形成される間隙を覆うフェンダートップカバーの構造において、前記間隙は、前記ウインドシールドガラスまたは前記フロントピラーの車両上下方向の下部で且つ車幅方向両側端部の近傍で、前記フェンダーパネルが車幅方向に内側に湾曲している部分と、前記ウインドシールドガラスまたは前記フロントピラーとの間に形成され、前記フェンダートップカバーは、前記フェンダーパネルに対向する第1の辺部と、前記第1の辺部の車両上下方向の下方に設けられた第2の辺部を有し、前記第1の辺部の車両前後方向の後部に第1のツメが設けられ、車両前後方向の前部に弾性変形可能な第2のツメが設けられ、前記フェンダートップカバーが前記間隙を覆っている状態で、前記第1のツメ及び前記第2のツメが、前記フェンダーパネルに係合し、前記第2の辺部が、前記フェンダートップカバーの下方に配置される車体構造部品に当接し、前記第1の辺部の前部が、前記第2のツメの弾性力により、前記フェンダーパネルの湾曲部分に係合するように構成されているので、フェンダートップカバーは、第1及び第2のツメがある第1の辺部をフェンダーパネルの車幅方向内側の辺部に接触させて、フェンダーパネルの車幅方向内側の辺部を支点(軸)にして、フェンダートップカバーを回転させながら、フェンダーパネルに取り付けることができる。これにより、フェンダーパネルの湾曲部分に回転しながらフィットしつつ、車体構造部品へ当接することで全体の樹脂弾性で初期の取付反力を得る。このため、見切りが安定し、経年変化や気温変化でのずれも吸収することができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

また、本発明によれば、前記脚部の車両上下方向の上部は、前記第2のツメに隣接する部分の前記湾曲辺部に設けられているので、変形可能な脚部で車体構造部品に固定されるため、湾曲辺部は、車体構造部品とは直接当接することなく、取付動作を行うことができる。